

スペイン語ガイドブック

直説法線過去

■ 1 線過去の意味は？

線過去は過去における動作・状態を持続的・不完了的な様子で示します。日本語にすると「...していた」「...だった」と訳される場合が多いです。過去の習慣を示して「...したものだった」と訳せる場合もあります。

- El pueblo estaba a la orilla del mar. // 村は海辺にあった。
- Nosotros navegábamos en un pequeño barco. // 私たちは小さな船に乗っていた。
- Los pescadores vendían el pescado. // 漁師たちは魚を売っていた。

■ 2 線過去の規則活用は？

線過去の規則変化は ar 動詞と er, ir 動詞で異なります。ar 動詞では語根に-aba-という線過去特有の延長部がついて、線過去語幹(例:cantaba-)を形成します。er 動詞と ir 動詞は語根に-ía-という線過去の延長部がつきます(例:comía-, vivía-)。人称語尾は3つの動詞タイプに共通でゼロ, s, ゼロ, mos, is, n です。すべての活用形で延長部に強勢があります。そのため、ar 動詞の NOSOTROS の活用形ではアクセント符号が必要です(cantábamos)。また、er 動詞と ir 動詞では 統一してアクセント記号をつけてíと書かれます。

ar 動詞 **cantar**

cant-aba	cant-ába-mos
cant-aba-s	cant-aba-is
cant-aba	cant-aba-n

er 動詞 **comer**

com-ía	com-ía-mos
com-ía-s	com-ía-is
com-ía	com-ía-n

ir 動詞 **vivir**

viv-ía	viv-ía-mos
viv-ía-s	viv-ía-is
viv-ía	viv-ía-n

■ 3 線過去の不規則変化は？

線過去時制の不規則変化は *ser* 「...である」, *ir* 「行く」, *ver* 「見る」の3つの動詞だけです。*ser*, *ir*, *ver* のそれぞれの線過去の語幹は *era-*, *iba-*, *veía-* です。人称語尾は規則変化と同じです。ここでも強勢の位置は変化しないので, *ser* と *ir* の **NOSOTROS** の活用形にアクセント記号が必要になり, また *ver* では統一して *í* にアクセント記号をつけます。

ser 「...である」

era	éra-mos
era-s	era-is
era	era-n

ir 「行く」	
iba	íba-mos
iba-s	iba-is
iba	iba-n

ver 「見る」	
ve-ía	ve-ía-mos
ve-ía-s	ve-ía-is
ve-ía	ve-ía-n

- Yo era estudiante de esta universidad. // 私はこの大学の学生でした。
- Íbamos juntos a la escuela. // 私たちは一緒に学校に通っていました。
- Cuando yo era niño, no veía mucho la televisión. // 私が子供だったころ、あまりテレビを見ませんでした。

■ 4 線過去の婉曲的な意味とは？

動詞の線過去形には婉曲的な用法があります。「時」を過去に移すことによって言葉の調子が少しやわらぎます。

- Yo te llamaba para invitarte al teatro. // お芝居に誘おうと思って電話したんだけど…◇**llamar**（動）電話をかける **invitar**（動）招待する

■ 5 始動を示す線過去とは？

線過去には「...しようとしていた」という意味でも使われます。

- Cuando salía de casa, recibí una llamada urgente. // 私が外出しようとしていたとき緊急の電話を受け取った。◇**recibir**（動）受け取る
llamada（女）（かかってきた）電話 **urgente**（形）緊急の。

*この線過去は「外出していたとき」ではなく「外出しようとしていたとき」という意味になります。

スペイン語の質問

***線過去の1人称単数形と3人称単数形は文脈で判断するしかないのですか？**

その通りです。もし、誤解が生じそうなときは、話し手や書き手は主語を明示するようにしています。とくに **usted** は明示される傾向があります。

***ser 動詞は過去形まで複雑で混乱しそうです。ser はいつも不規則ですか？**

不規則動詞はよく使われる動詞ばかりですから、がんばってください。後で習う **ser** の未来形は規則変化です。

***ar 動詞は1人称複数が現在と点過去で一緒ですが、ちゃんと判断がつくものなのでしょうか？**

多くの場合、状況、文脈、常識で判断がつきます。それでも誤解が生じる場合もあります。**ir** 動詞も1人称複数が現在と点過去で一緒です。

スペイン語の理由

***線過去の活用形は一人称単数と三人称単数はまったく同じ活用ですが、なぜ同じになったのですか？明らかに不便に思えるので、別の形にするのが自然だと思います。**

たしかに紛らわしくて不便です。これは、スペイン語の母体であるラテン語ではちゃんと区別されていました。ar動詞の活用語尾は（ラテン語ではare動詞）、abam, abas, abat, abamus, abatis, abantのように活用していたので、主語がなくても大丈夫でした。ところが、スペイン語になると語末のmとtが消失して、aba, abas, aba, ábamos, abais, abanとなったので、その結果、1人称単数と3人称単数は同じ形になりました¹。

このように、言語の歴史をたどると、コミュニケーションに不便になるにもかかわらず、音声的な条件で一律に変化してしまう事例がいくつもあります。これから勉強する過去未来や接続法現在、接続法過去でも同じです。

現在のスペイン語圏の人は不便を感じていないのでしょうか。主語がなくてもほとんどの場合、文脈、状況、常識などで判断できるので問題ないのですが、ときどき誤解が生まれることもあります。そのようなときは、ちゃんと主語をつけておいたほうがよいでしょう。

¹ ここで、sは残っているのになぜ語末のmとtがなくなったのかは、子音の音声的特徴によります。スペイン語ではn, s, l, r, d, zが語末で比較的安定しています。